関東地方

名前

問1　明治政府が日本の近代化を推進するために、最新の機械と技術を導入して群馬県に設立した施設について説明したものとして、最も適切なものを選びなさい。（2020年 秋田県公立入試 類似）

1. 北海道の開拓を目的として、屯田兵の居住区に併設された大規模農場。
2. フランスの技術を導入して建設された官営模範工場である富岡製糸場。
3. 石見銀山遺跡の一部として、銀の精錬技術を全国に広めた施設。
4. 長崎県に設置され、鉄鋼の国産化を目的とした官営の八幡製鉄所。

問2　都市の人口構造を示す「昼夜間人口比率（夜間人口を100とした時の昼間人口の割合）」について、東京23区のようにこの比率が100を大きく超える地域の特徴として、最も適切なものはどれですか。（2021年 埼玉県公立入試 類似）

1. 都市の中心部にオフィスや学校が集中しており、周辺地域から多くの人々を吸い寄せている。
2. 周辺の県に比べて農地や工場が多いため、日中に周辺地域へ働きに出る人が多い。
3. 地価が安いため、中心部に住居を構える世帯が多く、夜間人口が昼間人口を上回っている。
4. 郊外に大規模なニュータウンが形成されており、夜間に多くの人々が帰宅してくる居住機能が中心である。

問3　群馬県沼田市から東京都の大田市場まで農産物を輸送する場合、一般道路を利用すると約300分かかりますが、高速道路を利用すると約150分に短縮されます。このように、農業において高速道路網を活用した輸送時間の短縮を図る最大の目的として、最も適切なものはどれですか。（2022年 長野県公立入試 類似）

1. 一般道路の渋滞を避けることで、排気ガスによる農作物への直接的な被害をなくすため。
2. 鉄道輸送に切り替えることで、一度に大量の穀物を遠方の港まで運ぶため。
3. 輸送コストを最小限に抑えるために、数日かけてゆっくりと市場へ届けるため
4. 農産物の鮮度を保ったまま、収穫したその日のうちに都市部の店頭へ並べるため。

問4　地形図において、かつての主要な交通路であった甲州街道の両側に、多くの建物を表す記号が途切れることなく連続して並んでいる地域が見られます。このような建物が集中的に配置されている様子から判断できる、この場所の景観上の特徴として最も適切なものはどれですか。（2019年 東京都公立入試 類似）

1. 街道沿いに形成された商店街
2. 橋が架かる急な坂道沿いの集落
3. 崖地に沿って広がる住宅地
4. 田畑の中に点在する農村

問5　さいたま市の人口統計において、常住する「夜間人口」が「昼間人口」を上回り、昼夜間人口比率が約93.0%と100%を下回る主な理由は、どのような背景によるものか。適切な説明を選びなさい。（2020年 鹿児島県公立入試 類似）

1. 高齢化の影響により、市外へ働きに出る現役世代が減り、日中も市内に留まる住民の割合が急増したため
2. 周辺の東京都などへ通勤・通学する人が多く、昼間に市外へ流出する人口が流入する人口より多いため
3. 大規模な工業地帯が形成されており、夜間に働く交代制の労働者が他地域から多く流入するため
4. 商業施設が市街地の中央に集中しているため、近隣の県から買い物客が多く流入し、夜間人口が相対的に少なくなるため

問6　日本の工業の変遷において、1960年から2014年にかけて北関東工業地域が製造品出荷額の割合を飛躍的に高めた主な要因として、最も適切なものはどれか。（2018年 高知県公立入試 類似）

1. 高速道路網の整備により、内陸部への工場の進出が容易になったため
2. 掘込港湾の建設が進み、大規模な臨海型コンビナートが形成されたため
3. 関東大震災後に、過密化した都心の工場が一斉に移転してきたため
4. 周辺に広大な炭田が存在し、安価なエネルギー資源を確保できたため

問7　東京都心への一極集中に関連して、新宿や渋谷、池袋などのように、都心と郊外を結ぶ多くの鉄道が集まり、路線の起点や終点となっている大規模な駅を一般に何というか。（2022年 青森県公立入試 類似）

1. ターミナル駅
2. ハブステーション
3. ジャンクション
4. クロスポイント

問8　近年、日本の大都市圏で見られる「都心回帰現象」が起きている背景とその仕組みについて、適切な説明はどれか選びなさい。（2024年 岐阜県公立入試 類似）

1. 地方公共団体が都心居住者に補助金を支給し、郊外から都市中心部への強制的な移住を進めた。
2. 郊外の交通網が整備されたことで、都心に住まなくても短時間で通勤できるようになったため、都心の居住ニーズが高まった。
3. 都市部での高齢化が深刻化したため、介護施設を確保しやすい郊外から、医療機関の多い都心へ高齢者が一斉に移り住んだ。
4. 都市中心部の地価が下落し、再開発によって居住環境が整備されたことで、利便性を重視する世帯の人口流入が進んだ。

問9　関東地方の農業統計において、生乳の出荷割合が上位である北部の内陸県について述べた文として、最も適切なものを次の中から選びなさい。（2016年 秋田県公立入試 類似）

1. 埼玉県は、東京都に隣接しているため、生乳の生産よりもコマツナやホウレンソウなどの近郊農業に特化している。
2. 群馬県は、山地や高原が多い地形を活かして酪農が盛んに行われており、生乳の生産量は全国でも上位に入っている。
3. 栃木県は、平野部が広いため稲作が中心であり、家畜の飼育は関東地方の中でも非常に少ない傾向にある。
4. 茨城県は、太平洋に面した長い海岸線を持ち、内陸部よりも沿岸部での酪農が産業の中心となっている。

問10　冬の関東地方において、北西の季節風が奥羽山脈や関東山地を越えて関東平野に吹き下ろす際に生じる、典型的な気候の特徴として最も適切なものはどれですか。（2024年 京都府公立入試 類似）

1. 水分を失い乾燥した冷たい風が吹き、晴天の日が多くなる。
2. 水分を含んだ湿った温かい風が吹き、雨の日が多くなる。
3. 水分を失い乾燥した温かい風が吹き、霧が発生しやすくなる。
4. 水分を含んだ湿った冷たい風が吹き、雪の日が多くなる。

問11　東京都の昼間人口比率が100を大きく超え、全国で最も高い数値を示す背景には、どのような都市構造や社会現象が関係していますか。周辺の県との関わりを踏まえた説明として最も適切なものを選びなさい。（2019年 和歌山県公立入試 類似）

1. 都心部の地価高騰などの影響で郊外に住宅地（ベッドタウン）が形成され、職住分離が進んだため
2. 東京都の夜間人口が周辺県に比べて急激に減少したことで、相対的に昼間の活動人口が目立つようになったため
3. 周辺県の産業が衰退したことにより、すべての住民が東京都内に移住して夜間人口が急増したため
4. 都心部に広大な農業用地が確保され、周辺県から季節労働者が大量に流入するようになったため

問12　1980年代までの都市部では、地価の高騰などにより人口が郊外へ流出する現象が見られましたが、近年では地価の下落や再開発を背景に、郊外から再び都市中心部へと人口が流入する現象が起きています。この現象を何と呼びますか。（2024年 岐阜県公立入試 類似）

1. 都心回帰現象
2. 限界集落化
3. 過疎化現象
4. ドーナツ化現象

答え合わせ・解説

問1	答え 2 フランスの技術を導入して建設された官営模範工場である富岡製糸場。	明治政府は、外貨を獲得するために主要な輸出製品であった生糸の品質向上と増産を目指しました。そのためにフランスから技術者や機械を招き、模範となる工場として群馬県に富岡製糸場を建設しました。この施設は後に世界文化遺産にも登録されています。
問2	答え 1 都市の中心部にオフィスや学校が集中しており、周辺地域から多くの人々を吸い寄せている。	昼夜間人口比率が100を超える（昼間人口 ＞ 夜間人口）ということは、その地域が仕事や教育の場としての機能を強く持っていることを意味します。東京23区や大阪市中心部などがその典型例です。一方、100を下回る（昼間人口 ＜ 夜間人口）地域は、居住機能が強い「ベッドタウン（衛星都市）」としての性格が強いと判断できます。
問3	答え 4 農産物の鮮度を保ったまま、収穫したその日のうちに都市部の店頭へ並べるため。	関東地方の郊外や高原地域では、大消費地である東京などの都市部に近い利点を活かした農業が行われています。高速道路を利用して輸送時間を半分に短縮することで、鮮度が落ちやすい野菜などを、早朝の収穫から時間を置かずに消費者に届けることが可能になります。これにより、商品の付加価値を高める工夫がなされています。
問4	答え 1 街道沿いに形成された商店街	古い街道沿いに建物が密集して並んでいるのは、かつての宿場町や、往来する人々を対象に商売を行う店が集まって形成された街並みを表しています。地形図上では、道路という線状の要素に沿って建物が連続する特徴的なパターンとして描かれ、これは交通の利便性が商業活動に結びついた結果です。
問5	答え 2 周辺の東京都などへ通勤・通学する人が多く、昼間に市外へ流出する人口が流入する人口より多いため	さいたま市は、交通網の発達により東京都心へのアクセスが良いため、居住地としての役割（ベッドタウン）を強く持っています。そのため、夜間に市内に住んでいる「夜間人口」に対し、日中に仕事や学校のために市外（主に東京都）へ移動する人が多くなり、市内に残る「昼間人口」が少なくなります。昼間人口を夜間人口で割って算出する昼夜間人口比率が100%を下回るのは、こうした人口の流出が流入を上回っていることを示しています。
問6	答え 1 高速道路網の整備により、内陸部への工場の進出が容易になったため	北関東工業地域は、内陸部に位置しながらも高速道路網を利用した効率的な物流が可能になったことで、自動車工業や電気機械工業などの加工組立型の産業が盛んになりました。地価の安さや広い用地を求めて、都心や沿岸部から工場が移転・新設されたことが発展の背景にあります。
問7	答え 1 ターミナル駅	英語の「Terminal（終点）」に由来し、多くの鉄道路線の始発・終着点となる駅を指します。日本の大都市圏では、郊外からの通勤・通学客が集まる交通の結節点として機能し、駅周辺には百貨店などの商業施設が集積します。ハブステーションは主に航空網の拠点空港を指すことが多く、ジャンクションは高速道路などの合流・分岐点を指す用語として使われます。
問8	答え 4 都市中心部の地価が下落し、再開発によって居住環境が整備されたことで、利便性を重視する世帯の人口流入が進んだ。	都心回帰現象の主な要因は、バブル経済崩壊後の地価下落によって都心部に住宅を確保しやすくなったことや、職住近接（職場と自宅が近いこと）を求める共働き世帯の増加です。これに合わせ、鉄道駅周辺や工場跡地での再開発が進み、高層マンションが多数供給されたことが、郊外からの人口流入を後押ししました。
問9	答え 2 群馬県は、山地や高原が多い地形を活かして酪農が盛んに行われており、生乳の生産量は全国でも上位に入っている。	群馬県は関東地方の北部に位置する内陸県であり、その地形的特性から酪農が非常に盛んです。特に北部の高原地帯では冷涼な気候を活かしたキャベツなどの高原野菜の栽培と並んで、乳牛の飼育が活発に行われています。一方で茨城県は東側で太平洋に面しており、栃木県や埼玉県も酪農は行われていますが、設問の地理的条件や生産の特徴に最も合致するのは群馬県です。
問10	答え 1 水分を失い乾燥した冷たい風が吹き、晴天の日が多くなる。	冬の北西の季節風は、日本海側で雪を降らせた後、山脈を越える際に水分を失います。そのため、山を越えて関東平野に吹き下ろす風は乾燥しており、太平洋側では晴天が続く要因となります。この乾燥した強い風は「からっ風」とも呼ばれます。
問11	答え 1 都心部の地価高騰などの影響で郊外に住宅地（ベッドタウン）が形成され、職住分離が進んだため	都市の過密化や地価の高騰により、人々の居住機能が郊外の「ベッドタウン」へと移転しました。一方で、オフィスや学校などの都市機能は都心部に集中したままであるため、昼間だけ都心へ移動し、夜間は郊外の自宅へ帰るという「職住分離」が進展しました。この構造的な要因により、東京都の昼間人口比率は100を大きく上回る状態が続いています。
問12	答え 1 都心回帰現象	高度経済成長期以降、都市部では地価が上昇したために居住地が郊外へと広がるドーナツ化現象が起きていました。しかし、1990年代後半以降、バブル崩壊による地価の下落や、都市中心部での大規模な再開発による高層マンションの建設が進んだことで、利便性を求める人々が再び都心に住むようになりました。